

iPS心筋移植 京大も

国内3番目 学内審査委で承認

iPS細胞（人工多能性幹細胞）から作った心臓の筋肉（心筋）や血管の細胞をシート状にして重ね、重

い心臓病患者に移植する京大チームの臨床研究を、学内の審査委員会が承認したことがわかった。今後、厚生労働省に計画を提出して実施を目指す。

チーム。関係者によると、京大の特定認定再生医療等委員会が今年4月、計画を承認した。

通り道を作り、細胞が長生きしやすいようにした。iPS細胞を使った心臓病の治療では、大阪大のチームが今年1月、世界で初めて心筋細胞のシートを患者に移植。慶応大のチームは5月、心筋細胞の小さな塊を患者の心臓に移植する臨床研究計画を厚労省に提出した。

計画では、京大の関連財団が備蓄するiPS細胞を、京大発ベンチャーの「iHeart JAPAN（アイハート・ジャパン）」（京都市）が心筋や血管などの細胞に変化させ、シートに加工。5枚重ねて患者数人の心臓に移植する。

シートは心筋の働きを改善するたんぱく質を分泌する。

iPS細胞を利用した心臓病の治療計画が明らかになるのは、大阪大と慶応大に続き3番目となる。

臨床研究を計画しているのは、京大心臓血管外科の

京都大のチームが
計画中のiPS細胞による
心臓病治療のイメージ



2020.06.14 読売新聞朝刊